

推薦状

第31回翁久允賞の選考にあたり、富山大学とともにラフカディオ・ハーン研究を行ってきた立場から、中島淑恵氏を推薦したく、以下に推薦理由を記したいと思います。

まず中島氏の経歴ですが、氏は東京外国語大学を卒業し、東京外国語大学大学院修士課程を修了した後、東北大学大学院文学研究科博士後期課程を単位取得退学されました。現職は富山大学人文学部人文学科教授でおられます。学位は文学修士、専攻はフランス近代文学で、翻訳書にアンリ・トロワイヤ『ボードレーン伝』（水声社、2002）（共訳）、アンリ・トロワイヤ『ヴォルレーヌ伝』（共訳）（水声社、2006）、ルネ・ヴィヴィアン『堇の花の片隅でールネ・ヴィヴィアン詩集』（彩流社、2011）などがあります。

中島氏は近年、富山大学におけるラフカディオ・ハーン研究をけん引する中心的な存在であります。本学におけるハーン研究については、その必要性、組織づくりの重要性が認識されていながら、長年進展が見られませんでした。その状況を一変させたのが中島氏であります。2015年5月に富山大学ヘルン研究会を、中島氏を含む富山大学の教員（人文学部2名、人間・発達科学部1名、医学部1名）をメンバーとして発足させました。この研究会は、国文学、英文学、仏文学の各分野からハーン研究を進めると同時に、富山大学所蔵ヘルン文庫の保存と活用、そして長期的には富山大学を拠点として、日本国内また世界の研究者と連携し、研究を深化させていくことを目指しています。

中島氏を翁久允賞に推薦する主な理由は、上述のハーン研究の活動が翁久允賞審査項目（平成28年5月28日決定）を、十分に満たしているからであります。まず審査項目（1）「富山から日本・世界への情報発信」については、2015年から現在における富山大学ヘルン研究会主催の講演会ならびに国際シンポジウムに際し、中島氏が尽力してきたことが挙げられます。富山大学学長裁量経費も獲得し、2015年5月にはアラン・ケラ・ヴィレジェ講演会「ピエール・ロチとラフカディオ・ハーン」、8月にはルイ・ソロ・マルティネル講演会「ラフカディオ・ハーン、マルティニック、日本ー距離は遠くとも詩的には近い幻想物語」を開催しました。そして2016年2月には「ラフカディオ・ハーン研究への新たな視点」と題して第一回の国際シンポジウムを開きました。その後も同様に2016年度、2017年度、2018年度と継続的に、外部資金（科学研究費補助金）や富山大学学長裁量経費を獲得し、講演会と国際シンポジウムを開催してきました。これらにおいては、国内外の実績ある著名な研究者、および若手のハーン研究者たちが集い、専攻分野を超える学際的な研究発表、議論が行われました。ハーン研究に関しては、島根、熊本、静岡などハーンゆかりの各地に研究機関や研究会が存在し、各地において単独的に研究活動を行っていたという状況でした。それらの研究拠点の交流や連携をはかる機会としても、中島氏率いる富山大学ヘルン研究会主催の国際シンポジウムは意義あるものでした。中島氏の人脈と行動力によって、国内外の研究者間の交流が促進された点は、大いに評価すべきと思われます。さらに、こうしたシンポジウムをきっかけに、富山大学ヘルン文庫の認知度とその活用はさらに高まっている

と実感されます。

次に中島氏の活動は、審査項目（3）「富山の文化などへの社会貢献」にも十分合致しています。中島氏は富山大学におけるヘルン文庫の重要性を認識し、その活用をはかるべく書き込み調査研究を、氏のハーン研究の中心に据え、「ラフカディオ・ハーン旧蔵書『ギリシア詞華集』英語版への書き込みについて（1）」（2018年2月）、「ヘルン文庫書き込み調査報告—『ギリシア詞華集』と『ルバイヤート』をつなぐもの」（2018年3月）などの論稿を発表してきました。また、2018年度より、富山大学附属図書館にて「へるんトーク」を開催し、氏の研究成果を踏まえ、ハーンの人生や作品、ヘルン文庫に関する様々な話題を、学生および一般市民の方々に向けて積極的に発信しています。また氏は富山八雲会の会員でもあり、八雲会とも連携を取りながら、講演、および八雲会紀要の『へるん倶楽部』に寄稿してきました。富山八雲会は、富山におけるハーン研究を2002年から、地道にそして多角的に行ってきた研究団体です。定期的な読書会や研究発表など学術的な側面だけではなく、ハーン作品を紙芝居という形で、子供たちをはじめとする一般の人々にも紹介し、その魅力を発信、普及する活動も行っています。中島氏は、富山大学ヘルン研究会を発足する際に、八雲会との連携についての必要性も語っておりました。その意図は、ハーン研究を、大学の研究者のうちだけに留めるのではなく、さまざまな形で、地域に根付いた研究として、さらにヘルン文庫を富山の文化的財産として活用していくためです。

以上のように、中島氏の富山大学ヘルン研究会を中心とした研究活動は、富山の文化的遺産であるヘルン文庫を、国際的・学際的な視野から積極的に活用し、同時にその研究成果やヘルン文庫の存在それ自体を、地域に広く普及させていくものです。こうした実績から、中島氏の研究活動は、翁久允賞の受賞に十分に値すると考えられます。

2018年10月31日

富山大学教養教育院 准教授 水野真理子